市町村名	11南城市

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-①	スポーツツーリズム推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第４章－３－（９）－ア スポーツ関連産業の振興と地域の活性化
担当部課名	教育部生涯学習課	事業実施（予定）年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１－（１）

事業内容

市陸上競技場における天然芝の適正管理を行い、プロ・サッカーチームのキャンプ受入に適した環境整備を行うことで、プロ・サッカーチームのキャンプ誘致に繋げる。

効果発現年度　■当年度　□後年度（　　年度）

実施方法　□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
予算の状況	(a) 当初予算額	13, 284	13, 519	10, 230	10, 230	11, 000
	(b) 予算現額	13, 284	13, 519	10, 230	10, 120	10, 780
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	-110	-220
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	13,284	13,519	10,230	10,120	10,780
	B. 執行済額	13, 229	13, 365	10, 230	10,120	10,780
	うち交付金充当額	10, 583	10, 692	8, 184	8,096	8,624
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		99.6%	98.9%	100.0%	100.0%	100.0%

予算の状況の説明　当初計画に基づき予定していた事業内容は全て実施でき、適正に予算を執行することができた。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
良質な芝生を維持する為の適正管理	目　標	（ 適正管理の実施 ）	（ 適正管理の実施 ）	（ 適正管理の実施 ）	（ 適正管理の実施 ）
	実　績	適正管理の実施	適正管理の実施	適正管理の実施	適正管理の実施
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明　天然芝を良質な状態で維持するため、①シャッタリング作業　②エアレーション作業　③バーチカル作業　④スリッティング作業　⑤ドリルエアレーション作業　⑥液剤散布作業　⑦目砂散布作業を実施し、キャンプ誘致の環境整備を行った。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（　年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（　年度）
プロ・サッカーチームのキャンプ誘致件数：3チーム以上	目　標	（　　）	（ 3チーム ）	（ 3チーム ）	（ 3チーム ）	（　　）
	実　績		1チーム	2チーム	2チーム	
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明　キャンプシーズン１月下旬から２月中旬にかけて、プロサッカーチーム（ジェフユナイテッド市原・千葉／アルビレックス新潟レディース）２チームを受け入れた。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・本市は、今季においても新規チームの受け入れも含め、複数のチームからキャンプ地として利用の意向がみられたが、キャンプ期間が重複することから受け入れできないチームがあり、目標受入チーム数を達成することができなかった。また、キャンプ地として市民の方々の理解や協力が必要となるが、地域連携事業等を短期間で満足度の高い事業を実施することができなかった。 ・2026年シーズンから秋春制へ移行することから1チーム当たりのキャンプ期間が減少することが想定される。	・本市は、宿泊施設も限られるため、早期にキャンプ日程の調整を行う必要がある。また、2026年シーズンからは秋春制へ移行し、更にキャンプ期間が減少することが想定されることから現在のコラボ事業の実施の有無も踏まえ、関係団体と受け入れ方法を模索し、効率的かつ有意義なキャンプの推進及び地域連携事業を図る必要がある。

今後の取り組み方針

・チームへキャンプ日程について早期に調整を行い、近隣市町村と分散での受け入れを目標とし、2026年シーズンの秋春制も含めた調整会議を早い段階で関係団体と行う。

・サッカー指導者講習会やサッカー教室等を単発的かつキャンプ期間のみで限定するのではなく、通年とおしてのオンライン教室や相談会等がチーム関係者とできるような関係を構築していく。また、受け入れ時にサッカーのみならず、第一次産業を活用したコラボ商品の開発を行い、シーズン中(ホームゲーム等)に販売ブース等を設置し商品の販売を行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
10,780	10,780	8,624	2,156	0

南城市 10,780千円 → 委託料 10,780千円 → 東洋グリーン株式会社 10,780千円 （南城市陸上競技場芝生管理委託業務）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○陸上競技場の使用状況と芝生や土壌の状態を把握できる業者と契約を交わす必要があるが、業務の性質から競争入札に適さないと判断し随意契約としているため、選定方法は妥当である。 ○予定通り事業実施でき、事業規模も適正であった。 ○費用、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	11南城市

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-②	デジタルアーカイブ事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第４章－１－（４）－ア 沖縄文化の継承・発展・普及
担当部課名	教育部　文化課	事業実施（予定）年度	平成30年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１－（１）

事業内容	歴史の継承及び観光誘客を図るため、本市の歴史・文化財・伝統芸能といった文化遺産のデジタルアーカイブ化を実施し、情報公開・発信を行う。
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
予算の状況	(a) 当初予算額		37, 024	39, 185	10, 286	20, 000
	(b) 予算現額		36, 390	38, 454	23, 894	19, 531
	(c) 増減額 (b-a)		▲ 634	▲ 731	13,608	▲ 469
	(d) 繰越額		0	0	0	0
	A.　計 (b+d)		36,390	38,454	23,894	19,531
	B.　執行済額		36, 121	38, 381	23,702	18,831
	うち交付金充当額		28, 896	30, 705	18,961	15,065
次年度繰越額			0	0	0	0
執行率（%）(B/A)			99.3%	99.8%	99.2%	96.4%

予算の状況の説明：概ね計画通りに事業を執行した。不用額700千円は、会計年度任用職員の報酬、旅費等の残などによるものである。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
文化財活用コンテンツの取り組み	目　標	（　）	（3エリア）	（3エリア）	（10か所）
	実　績		3エリア	4エリア	10か所
歴史資料のデジタル化、資料情報の充実化および新規資料の公開	目　標	（　）	（アーカイブ化及び公開）	（5,000点）	（5,000点）
	実　績		アーカイブ化及び公開	5,000点	10,936点

達成状況説明：
・文化財活用コンテンツの取り組みとして、市内10カ所にて収集した古写真やその聞き取りデータについて、「南城アーカイブツーリズム」へ新規登録、公開を行った。
・歴史資料のデジタル化、資料情報の充実化および新規資料の公開として、1万点余りの資料をWebサイト「なんじょうデジタルアーカイブ」にて新規公開した。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（年度）
デジタルアーカイブを活用した観光コンテンツの利用者数	目　標	（　）	（延べ1,200人以上）	（延べ1,200人）	（延べ1,200人）	（　）
	実　績		965人	926人	1,519人	
デジタルアーカイブ閲覧数	目　標	（　）	（　）	（60,000pv）	（70,000pv以上）	（　）
	実　績			73,768pv	125,921pv	

進捗状況説明：
・デジタルアーカイブを活用した観光コンテンツの利用者数として、観光コンテンツ「南城アーカイブツーリズム」の利用者数を計測したところ、目標値を上回った。
・「なんじょうデジタルアーカイブ（なんデジ）」の閲覧数を計測したところ、目標値を大きく上回った。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・「南城アーカイブツーリズム」の利用者数が目標値を上回った要因としては、市内学校や関係機関へ普及する機会を増加させたことによるものと考えられる。 ・「なんデジ」の閲覧数が目標値を上回った要因としては、年間を通して定期的な新規資料の公開やコラムの配信、SNS等での情報発信を行ったことによるものと考えられる。	・「南城アーカイブツーリズム」の利用者数を増やすため、引き続き市への来訪者等へ周知するとともに、多方面へ広報する機会を増やす。 ・「なんデジ」の閲覧数を増やすため、引き続き新規資料の定期的な公開やコラムの配信、SNS等での情報発信を行う。

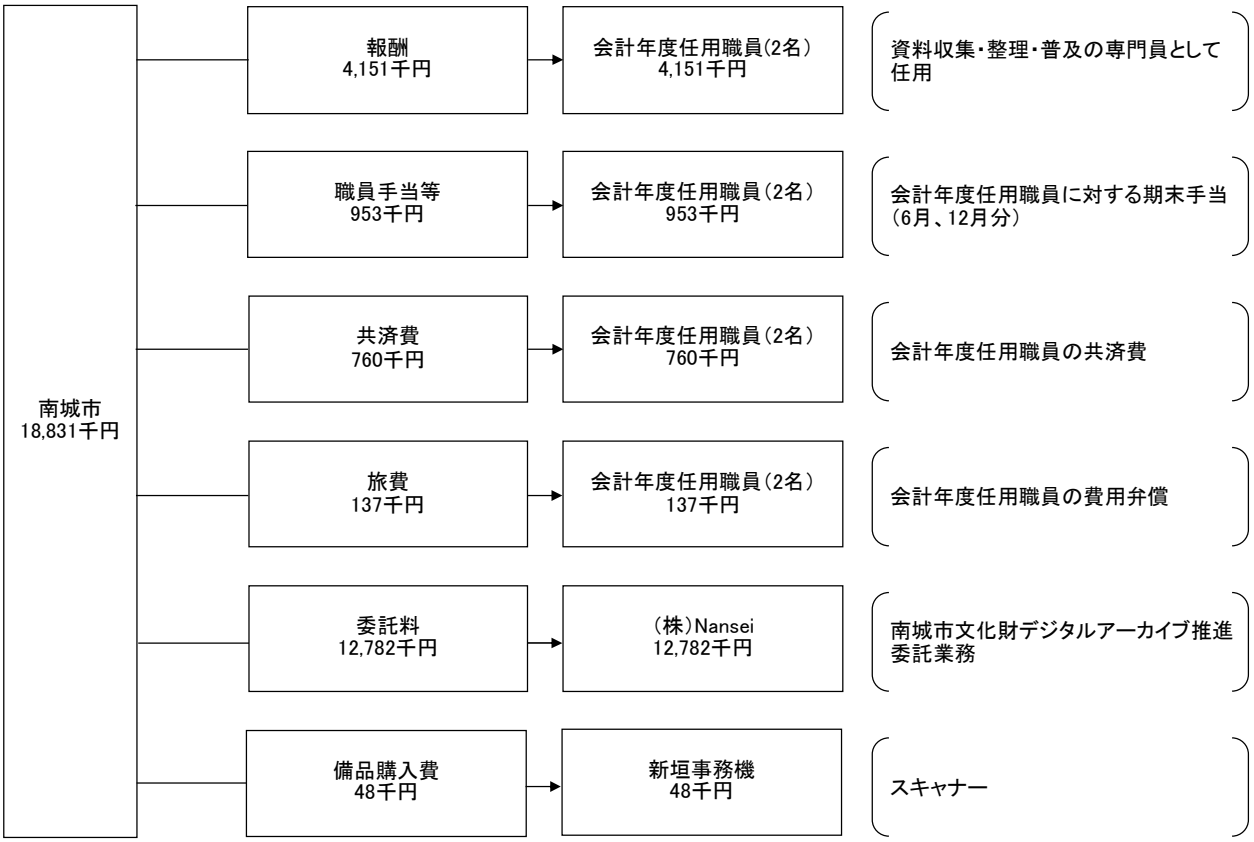
今後の取り組み方針

・「南城アーカイブツーリズム」、「なんデジ」の利用者数、閲覧数の増加を図るため、引き続き新規資料の公開、SNS等での情報発信を行う。

資金の流れ

（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
18,831	18,831	15,065	3,766	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は一般競争入札により選定しており、妥当である。 ○不用額は事業費の5%以内であり、適正な規模であった。 ○費目・使途については精算時に検査を実施し、事業目的に即し必要なものに限定されていると判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	11南城市

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-④	奥武島いまいゆ市場観光施設機能強化事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第４章－３－（２）－ア 「新しい生活様式／ニューノーマル」における安全・安心で快適な観光の推進
担当部課名	農林水産部　産業振興課	事業実施（予定）年度	令和４～令和６年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１－（６）

事業内容	奥武島いまいゆ市場に飲食スペースの整備を行い、施設の利便性を向上させることで、更なる県内外の観光客を誘客し地域の活性化を図る。
効果発現年度	□当年度　■後年度（ 令和7年度）
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
予算の状況	(a) 当初予算額	2, 578	8, 583			
	(b) 予算現額	2, 486	8, 305			
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 92	▲ 278			
	(d) 繰越額	0	0			
	A. 計 (b+d)	2,486	8,305			
B. 執行済額		2,486	8,305			
うち交付金充当額		1,988	6,644			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%			

予算の状況の説明：入札残を補正減し、適正に予算を執行することが出来た。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
基本設計の実施	目　標	（　実施　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	実施			
実施設計の実施	目　標	（　）	（　実施　）	（　）	（　）
	実　績		実施		

達成状況説明：奥武島いまいゆ市場観光施設の実施設計を実施した。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（　年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（R7年度）
実施設計の完了	目　標	（　）	（　完了　）	（　完了　）	（　）	（　）
	実　績		完了	完了		
【R7成果目標】 ・施設利用者にアンケート調査を実施し、飲食スペースの整備により利便性が確保されたか（満足度80%以上）を含め、アンケート調査により本事業のあり方を検証する。	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（ 80%以上 ）
	実　績					
【R7成果目標】 ・いまいゆ市場への来場者数1万7千人増	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（ 17,000人増）
	実　績					

進捗状況説明：奥武島いまいゆ市場観光施設の実施設計を完了した。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	施設の機能強化により、施設の利便性が確保されたかを検証する必要がある。	いまいゆ市場への来場者数及び奥武島来島者を増加させるため、奥武島観光体験施設の周知方法を検討する。

今後の取り組み方針

R7成果目標の達成状況確認の為、人流ビックデータの活用、アンケート調査の作成を行う。SNS等を活用した情報発信を行い、集客数を増やしていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
8,305	8,305	6,644	1,661	0

南城市 8,305千円 → 委託料 8,305千円 → 株式会社 総合設計玉城 8,305千円

（奥武島いまいゆ市場観光施設実施設計業務委託）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は指名競争入札で選定しており、妥当である。 ○不用額は無く、適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	11南城市

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1－⑤	観光地美化等環境整備事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－3－（2）－ア 「新しい生活様式／ニューノーマル」における安全・安心で快適な観光の推進
担当部課名	企画部　観光商工課	事業実施（予定）年度	平成28～令和8年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－10－（1）

事業内容	沖縄本島南部には、様々な観光スポットが点在しており、観光客の多くは、東海岸の青い海を眺望しながら爽快にドライブし本市を訪れている。訪れた観光客が再訪したくなる魅力ある美しい景観形成に取り組む。
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R1年度（未実施）	R2年度（未実施）	R3年度（未実施）	R4年度（未実施）	R5年度
予算の状況	(a) 当初予算額					14, 850
	(b) 予算現額					14, 850
	(c) 増減額 (b-a)					0
	(d) 繰越額					0
	A. 計 (b+d)					14,850
B. 執行済額						15,301
うち交付金充当額						12,240
次年度繰越額						0
執行率（%）(B/A)						103.0%

予算の状況の説明	雑木等処分量が当初見込みより増加したため、事業費の増額が生じたが、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
環境美化作業の実施	目　標	（　伐採実施　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	伐採完了			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明	知念区域（L=1.3km）を通る国道331号及び県道88号線沿いにおいて、雑木等により景観を阻害している箇所を選定し、伐採を実施した。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（　年度）	R5年度	R6年度	R7年度	目標値（　年度）
環境美化作業による草木処分量：70t/年	目　標	（　）	（　70t　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		128t			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明	草木等を128t伐採を実施したことで、遮断されていた青い海などの美しい景観が眺望できるようになり、本市の重要な自然景観資源を創出できたことから、当初目標どおりの事業を完了することができた。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	伐採後、美しい景観が眺望できるようになり美観形成を推進できたが、亜熱帯気候である沖縄は樹木の生長が早いことから、創出した美しい景観を保持していくための定期的な雑木除去が必要である。	観光客が再訪したくなる観光地づくりの推進のためには、本市だけではなく、自治会や地元業者との合意形成を図り、本市主催の伐採事業はじめ、地域住民が参加するボランティア清掃活動など定例的に行えるよう体制を整える必要がある。

今後の取り組み方針

年間を通して美しい景観が眺望できるよう、地元事業者や地域住民を巻き込んだボランティア清掃活動にも取り組む。
令和6年度は、玉城区域（一部知念区域含む）の東海岸沿いを通る国道331号において、雑木等により景観を阻害している箇所を選定し、伐採事業を実施する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
15,301	15,301	12,240	3,061	0

南城市 15,301千円 → 委託料 15,301千円 → 有限会社　樹徳苑 15,301千円（南城市観光地美化等環境整備委託業務）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業務について、地方自治法施行令第167条の5第1項及び第167条の5の2の規定に基づき、一般競争入札で落札した有限会社樹徳苑への業務委託契約であり、妥当であったと考えている。 ○雑木等処分量が当初見込みより増加したため、事業費の増額が生じたが、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正な規模であった。 ○費目・使途について、完了検査において実績報告書等の書類を精査しており、目的に即し、必要であったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	11南城市

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	１－⑥	尚巴志ハーフマラソン大会を核とした地域振興事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－３－（2）－エ DXによる沖縄観光の変革
担当部課名	企画部まちづくり推進課		事業実施（予定）年度	令和5年度～令和7年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１－（1）
事業内容	県内屈指の人気スポーツイベントとして定着している尚巴志ハーフマラソンの観光連携、DX推進を図ることで、関係人口増加や地域経済の発展につなげる。				
効果発現年度	□当年度　■後年度（令和8年度）				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
予算の状況	(a) 当初予算額	27,691				
	(b) 予算現額	27,691				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 繰越額	0				
	A. 計 (b+d)	27,691				
B. 執行済額		27,658				
うち交付金充当額		22,126				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		99.9%				
予算の状況の説明		当初予定通り予算を執行することができた。				

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
アンケート調査の実施	目　標	（　実施　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	完了			
交流イベントの開催	目　標	（　開催　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	開催			
尚巴志ハーフマラソン20回記念大会の開催	目　標	（　開催　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	開催			
アクションプランの策定	目　標	（　策定　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	完了			

達成状況説明

・ランナー、過去の参加者、市民、市内事業者等を対象にアンケートを実施した。
・交流イベントとして「尚巴志大交流祭」をユインチホテル南城駐車場特設会場で開催した。
・尚巴志ハーフマラソン20回記念大会を南城市文化センターで開催した。
・尚巴志ハーフマラソン地域振興アクションプランを策定した。

R5成果目標（指標）		基準値（　年度）	R5年度	R6年度	R7年度	目標値（　年度）
アンケート調査の実施調査の完了（サンプル数1000名）	目　標	（　）	（　1000　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		1106			
交流イベントの集客（1000名）	目　標	（　）	（　1000　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		2100			

成果目標（指標）及び進捗状況							
尚巴志ハーフマラソン20回記念大会の開催 ハーフマラソン20回記念大会参加者数（5000名）	目 標	（　　）	（ 5000 ）	（　　）	（　　）	（　　）
	実 績		6072			
アクションプラン策定完了	目 標	（　　）	（ 策定 ）	（　　）	（　　）	（　　）
	実 績		完了			

進捗状況説明	
	・大会及び交流イベントを通じてアンケート調査を実施し1106件のサンプルを得ることができた。 ・大会終了後に交流イベントを開催し2100名の集客が得られた。 ・尚巴志ハーフマラソン20回記念大会を開催し6072名の参加が得られた。 ・尚巴志ハーフマラソン大会地域振興アクションプランを策定した。

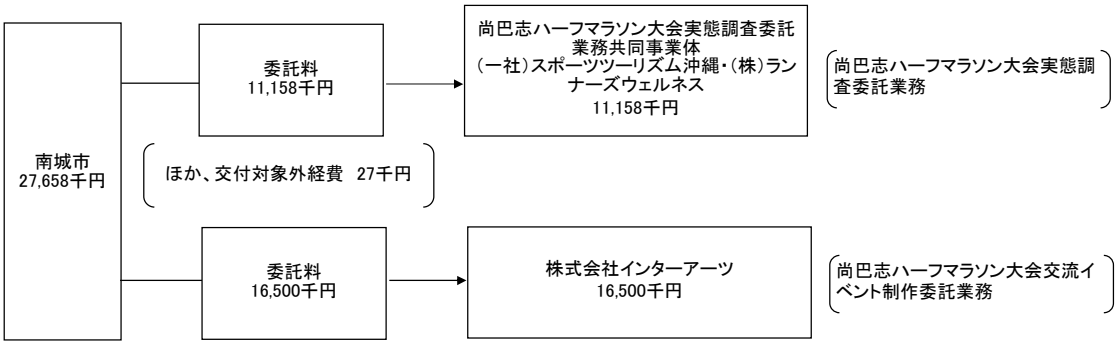
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	尚巴志ハーフマラソン大会事務局業務と調査業務を同時並行で行うことになったことから混乱が懸念されたが、概ね順調に調査・計画策定を行うことができた。	尚巴志ハーフマラソン大会地域振興アクションプランが策定されたことから、今後はその計画に基づき事業を推進していく必要がある。

今後の取り組み方針

・令和6年度は大会実行委員会主体で計画に基づき大会そのものの受皿づくりとしてのブラッシュアップを行う。
・令和7年度以降は市として観光産業との連携やDXなどを踏まえた取り組みを推進する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
27,685	27,658	22,126	5,532	27



資金の流れ、費目・使途の点検・評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザル方式で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○受益者は市であることから市が負担することで問題ない。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	11南城市

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-①	学習支援員配置事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第４章－５－（２）－ア 確かな学力を身に付ける学校教育の充実
担当部課名	教育部　教育指導課	事業実施（予定）年度	平成25～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－３－（１）
事業内容	児童生徒の学力に応じた個々の学習指導を行うため、学習支援員を配置し、学力の向上を図る。				
効果発現年度	■当年度　　□後年度（　　年度）				
実施方法	■直接実施　　□委託　　□補助　　□負担　　□その他（　　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
予算の状況	(a) 当初予算額	17, 640	17, 928	19, 422	19, 449	16, 272
	(b) 予算現額	17, 640	17, 928	17, 357	19, 449	8, 489
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	−2,065	0	−7,783
	(d) 繰越額	0	0	0	0	
	A. 計 (b+d)	17,640	17,928	17,357	19,449	8,489
	B. 執行済額	14, 650	14, 751	14, 973	15,402	9,265
	うち交付金充当額	11, 720	11, 801	11, 978	12,321	7,412
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		83.0%	82.3%	86.3%	79.2%	109.1%

予算の状況の説明：上半期の事業実績に基づき減額を行ったが、想定していた活動時間を上回る実績となった。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
市立８小学校へ学習支援員9名配置	目　標	（8小学校 学習支援員8名）	（8小学校 学習支援員9名）	（8小学校 学習支援員9名）	（8小学校 学習支援員9名）
	実　績	8小学校 学習支援員延べ8名	8小学校 学習支援員延べ12名	8小学校 学習支援員延べ10名	8小学校 学習支援員延べ8名
市立４中学校へ学習支援員４名配置	目　標	（4中学校 学習支援員4名）	（4中学校 学習支援員4名）	（4中学校 学習支援員4名）	（4中学校 学習支援員4名）
	実　績	4中学校 学習支援員延べ4名	4中学校 学習支援員延べ6名	4中学校 学習支援員延べ4名	4中学校 学習支援員延べ4名

達成状況説明：
・小学校は、延べ人数では少なくなっているが、1校を兼務体制にすることで全学校に配置することができた。
・中学校は、予定通りに配置することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（　年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（　年度）
小学校：児童生徒理解度調査の算数の満足度80%以上	目　標	（　　）	（県平均以上）	（県平均以上）	（満足度80%）	（　　）
	実　績		県平均 55.2 小学校 51.8 △3.4	県平均60.1 小学校57.4 △2.7	81% 1%	
中学校：沖縄県学力到達度調査における中学1年生の数学の平均正答率の県平均以上	目　標	（　　）	（県平均以上）	（県平均以上）	（県平均以上）	（　　）
	実　績		県平均47.8 中学校 45.7 △2.1	県平均47.5 中学校48.3 0.8	県平均36.5 中学校35.0 △1.5	

進捗状況説明：
小学校では、調査の結果、学習への興味関心が81%となり、目標を達成することができた。
中学校では、沖縄県学力到達度調査の結果を県平均と比較すると、△1.5ポイントと県平均に届かず目標に達しなかったが、5校中1校が県平均を上回ることができた。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	教科、学年を絞って事業を行い、学習支援員を配置することができた。 中学校において、小学校からの積み上げが十分に発揮できず、成果目標を達成することができなかった。 小学校からの取り組みを継続しながら、授業改善と組み合わせた効果的な支援の実施が課題である。	支援方法の打ち合わせや教材研究を推進していく。 長期休暇期間中の支援方法を検討する。

今後の取り組み方針

小学校3年生の算数及び中学校1年生の数学に焦点を当てて実施していく。
担任との打ち合わせや教材研究を強化し、支援を効果的に実施していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
9,265	9,265	7,412	1,853	0

南城市
9,265千円

→ 学習支援員　報償費
9,221千円

（小学校　8小学校8人配置
中学校　4中学校4人配置）

→ 役務費　44千円

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○市規定に基づき報償費を支出しており、妥当であったと考えている。 ○概ね予定通り事業を実施でき、事業規模は適正であった。 ○費目・使途は、活動状況報告により確認しており、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	11南城市

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-②	特別支援教育支援員配置事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第４章－５－（２）－エ 時代の変化に対応する魅力ある学校づくりの推進
担当部課名	教育部　教育指導課 福祉部　こども保育課	事業実施（予定）年度	平成25～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－３－（１）

事業内容	特別な支援を要する園児・児童・生徒に対応した支援を行うため、特別支援教育支援員を配置し、学校生活や学習上の困難の改善を図る。
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
予算の状況	(a) 当初予算額	74, 955	76, 585	76, 585	57, 842	100, 474
	(b) 予算現額	74, 955	76, 585	69, 085	57, 842	53, 464
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	−7,500	0	−47,010
	(d) 繰越額	0	0	0	0	
	A. 計 (b+d)	74,955	76,585	69,085	57,842	53,464
	B. 執行済額	54, 109	53, 149	64, 285	50,833	54,479
	うち交付金充当額	43, 287	42, 519	51, 427	40,666	43,583
次年度繰越額		0	0	0	0	
執行率（%）(B/A)		72.2%	69.4%	93.1%	87.9%	101.9%

予算の状況の説明：支援員配置計画に基づき支援員の目標数確保を目指していたが、目標数を確保する事が出来ない状況や年度途中での退職もあり、予算減額を行った。しかし、年度末に、会計年度任用職員給与改定に伴う4月遡及等の支払いを行ったことから、執行率が100%を上回る結果となった。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
1こども園：特別支援教育支援員の配置	目　標	（12名）	（12名）	（4名）	（9名）
	実　績	延べ24名	延べ29名	延べ13名	延べ10名
8小学校：特別支援教育支援員の配置	目　標	（34名）	（34名）	（30名）	（26名）
	実　績	延べ31名	延べ35名	延べ35名	延べ26名
4中学校：特別支援教育支援員の配置	目　標	（8名）	（8名）	（5名）	（4名）
	実　績	延べ8名	延べ7名	延べ5名	延べ5名

達成状況説明：特別支援教育支援員配置計画に基づき、概ね適正な配置により支援を行うことができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（年度）
特別支援教育支援員の対応への満足度（80%以上）を含め、保護者へのアンケートにより本事業のあり方について検証する。	目　標	（　）	（80%以上）	（80%以上）	（80%以上）	（　）
	実　績		86.3%	82.0%	82.0%	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：対象児童生徒への適切な支援を行うことができ、目標を達成することができた。

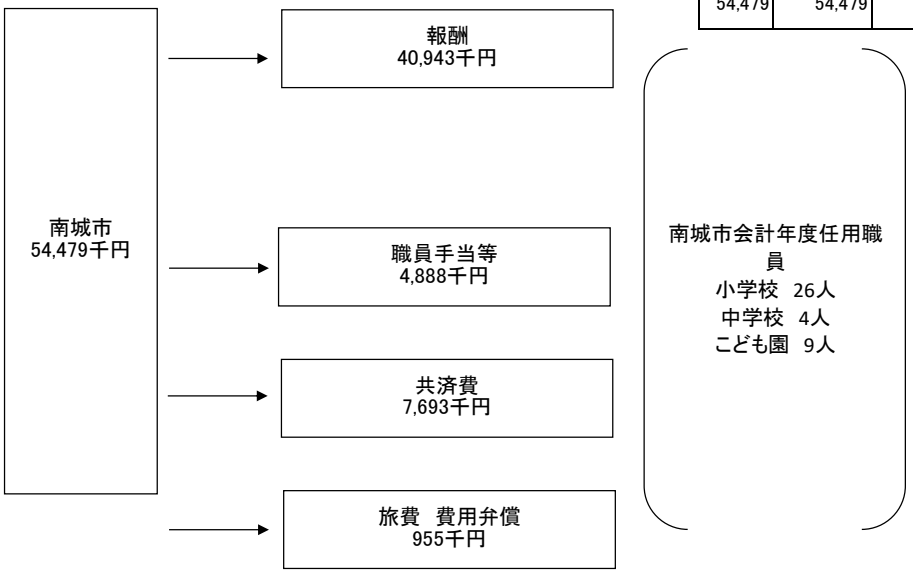
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・特別な支援を要する園児・児童・生徒に対し支援員を配置し、担任教諭等との連携により適切な対応を行ったことで、障害から生ずる個々の困り感を克服し、落ち着いて学校生活や学習活動に取り組めるようになるなど自立を促すことが出来た。 ・今後も成長段階及び個々の実態に応じた適切な対応等、充実した特別支援教育への取り組みが必要である。 ・支援を要する園児・児童・生徒が年々増加傾向にあり、年度当初の配置計画どおりに支援員が配置（確保）できない状況がある。	・対象園児・児童・生徒の増加に対応しつつ、より質の高い特別支援教育が行えるよう支援方法や研修の充実に取り組むとともに、保護者や各学校の特別支援コーディネーターとの連携を強化する。 ・年度当初から計画された支援員を配置（確保）できるよう、待遇面の改善を検討する必要がある。

今後の取り組み方針

支援対象児童生徒の社会的な自立に向けて、特別支援教育支援員連絡会における研修内容の充実化を図るとともに、各学校の特別支援コーディネーターとの連携をより強化し、個々の実態に応じた適切な対応を行っていく。
また、特別支援教育支援員配置計画に基づいた支援員を配置できるよう、待遇面の改善を図るとともに、人事担当課との連携を強化する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
54,479	54,479	43,583	10,896	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○市規定に基づき、報酬、職員手当、共済費、通勤手当を支出しており、妥当であったと考えている。 ○概ね予定通り事業を実施でき、事業規模は適正であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	11南城市

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-③	ICT支援員派遣事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第４章－５－（３）－イ Society5.0に対応する教育の推進
担当部課名	教育部　教育指導課	事業実施（予定）年度	令和３～令和７年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－３－（１）

事業内容	ICT機器を活用したわかりやすい授業の構築を図り、教育の質を確保するため、市内の小中学校にICT支援員を派遣する。
効果発現年度	■当年度　　□後年度（　　年度）
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
予算の状況	(a) 当初予算額	30, 624	12, 760	19, 800		
	(b) 予算現額	9, 570	12, 650	19, 800		
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 21,054	▲ 110	0		
	(d) 繰越額	0	0			
	A. 計 (b+d)	9,570	12,650	19,800		
	B. 執行済額	9, 570	12, 650	19, 800		
	うち交付金充当額	7, 656	10, 120	15, 840		
次年度繰越額		0	0	0		
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%		

予算の状況の説明：当初の予定通り、予算を執行することが出来た。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
市内13小中学校にICT支援員2人を派遣する。	目　標	（　2人　）	（　2人　）	（　3人　）	（　3人　）
	実　績	2人	2人	3人	
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明：ICT支援員3名を配置し南城市立各小中学校へ派遣することが出来た。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（　年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（　年度）
・児童生徒にアンケートを実施し、ICT機器を活用した授業が分かり易かったと答えた割合が85%以上	目　標	（　　）	（　85%以上　）	（　85%以上　）	（　85%以上　）	（　　）
	実　績		96.30%	93.35%	96.44%	
・教諭にアンケートを実施し、ICT支援員の配置により、ICT機器の習熟度が上がったと答えた割合が80%以上	目　標	（　　）	（　80%以上　）	（　80%以上　）	（　80%以上　）	（　　）
	実　績		60.20%	56.65%	98.50%	

進捗状況説明：
- ICTを活用した授業について分かりやすかったと回答は目標より11.44%上回る結果となった。
- 教諭へのアンケートとしてICT機器の習熟度が上がったとの回答は目標より18.5%上回る結果となった。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	１３校に3名のICT支援員を配置したことにより、ICT活用力向上に係る研修や支援が増え教職員の習熟度も増加した。	教職員全体の習熟度向上や日々の授業においてICT機器を効果的に活用出来るような工夫が必要である。

今後の取り組み方針

ICT支援員によるICT機器活用力と教員の指導力をマッチングさせることにより、ICT機器を活用した効果的で分かりやすい授業を実現し教員の習熟度向上を図っていく。また、ICT機器を活用した教材の共有を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
19,800	19,800	15,840	3,960	0

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募プロポ―サル方式により、提案内容を審査した上で選定しており妥当であったと考えている。 ○適正な予算規模であった。 ○費目・使途については、完了後に検査を実施しており事業目的達成のため、必要であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	11南城市

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-④	電子黒板等学校ICT機器機能強化整備事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第４章－５－（３）－イ Society5.0に対応する教育の推進
担当部課名	教育部　教育指導課	事業実施（予定）年度	令和４年度～令和７年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－３－（１）
事業内容	市内各小中学校へ電子黒板を整備し、タブレットPC端末等のICT機器との連携による個別最適な学びの実現を図る。				
効果発現年度	□当年度　■後年度（R6年度）				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
予算の状況	(a) 当初予算額	201,565	87,129			
	(b) 予算現額	139,480	85,085			
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 62,085	▲ 2,044			
	(d) 繰越額	0	0			
	A. 計 (b+d)	139,480	85,085			
	B. 執行済額	137,126	85,085			
	うち交付金充当額	109,700	68,068			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		98.3%	100.0%			

予算の状況の説明：当初予算額と執行済額との差額は、入札残によるものである。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
南城市立各小中学校における電子黒板整備	目　標	（143台）	（76台）	（　）	（　）
	実　績	143台	88台		
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：南城市立小中学校へ電子黒板を整備することが出来た。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（　年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（R6年度）
児童生徒にアンケートを実施し、ICT機器を活用した授業が分かり易かったと答えた割合が85%以上	目　標	（　）	（　）	（85.00%）	（　）	（85.00%）
	実　績			96.44%		
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：ディスプレイ式電子黒板を整備したことにより視覚的に分かりやすく児童生徒が使うタブレット端末の画面をワイヤレスにより簡易的に投影することで、互いの考えを深める等、興味関心が高まる場面が見られるようになっているものの新しい機器の操作に苦慮されている状況も見られる。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・電子黒板は様々な機能を有しており、操作方法など、扱う教員の知識や技能の差が生じており、授業の質を確保する必要がある。	・授業の質を確保するためにICT支援員を派遣し、教員の知識や技能に合わせた支援体制を強化する必要がある。

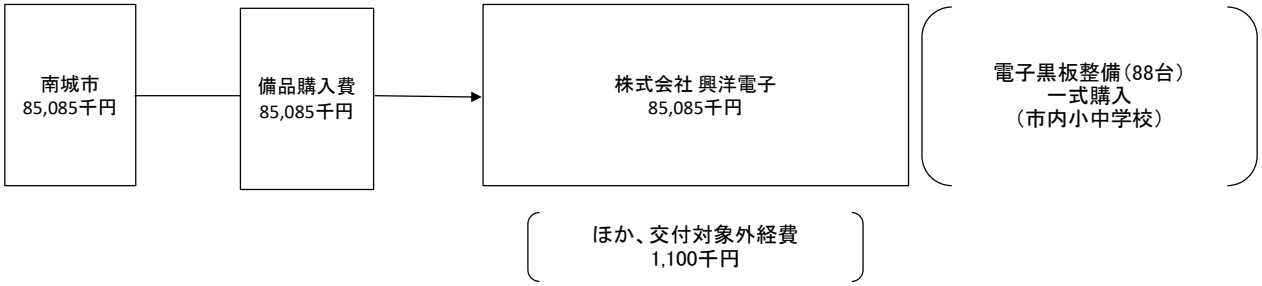
今後の取り組み方針

・電子黒板の様々な機能を効果的に活用して頂くため、ICT支援員による研修会や事例紹介など、活用促進を図る。

資金の流れ

（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
86,185	85,085	68,068	17,017	1,100



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ 委託事業者は一般競争入札により選定しており、妥当であったと考える。 ○ 予算規模については、予算執行率100%であり、適正な規模と判断した。 ○ 費目・使途については、完了後に検査を実施しており事業目的達成のため、必要であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	11南城市

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-⑤	不登校児童生徒支援体制強化事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－5－（2）－エ 時代の変化に対応する魅力ある学校づくりの推進
担当部課名	教育部　教育指導課	事業実施（予定）年度	令和４～令和10年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－（1）

事業内容	不登校児童生徒に対する更なる支援体制を強化するため、校務支援システムの導入、適応指導教室・校内自立支援教室の設置、不登校支援員の配置等を行う。
効果発現年度	□当年度　■後年度（R10年度）
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　■その他（使用料）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
予算の状況	(a) 当初予算額	22,570	31,059			
	(b) 予算現額	22,570	28,668			
	(c) 増減額 (b-a)	0	−2,391			
	(d) 繰越額	0	0			
	A. 計 (b+d)	22,570	28,668			
	B. 執行済額	19,531	26,273			
	うち交付金充当額	15,624	21,019			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		86.5%	91.6%			

予算の状況の説明：予算額と執行済額との差額は、入札残によるものである。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
校務支援システムのカスタマイズ、データ移行、グループウェアクラウド構築及び運用環境設定作業、メーカー研修を実施	目　標	（　実施　）	（　実施　）	（　　）	（　　）
	実　績	実施	実施		
適応指導教室の設置完了 校内自立支援教室の設置完了 不登校支援員の配置完了	目　標	（　　）	（　実施　）	（　　）	（　　）
	実　績		実施		

達成状況説明：令和5年度は校務支援システム及びグループウェアの設定、研修、データ移行が完了し利用を開始した。また、適応指導教室及び校内自立支援教室を開設することができ、不登校支援員を配置することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（　年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（R10年度）
校務支援システムのカスタマイズ、データ移行、グループウェアクラウド構築及び運用環境設定作業、メーカー研修が完了 適応指導教室、校内自立支援教室の設置完了 不登校支援員の配置完了	目　標	（　　）	（　完了　）	（　完了　）	（　　）	（　　）
	実　績		完了	完了		
【R10成果目標】 児童生徒の不登校率：小学校1.0%、中学校2.0%以下	目　標	（　　）	（　　）	（小学校1.0% 中学校2.0%）	（　　）	（小学校 1.0%以下 中学校 2.0%以下）
	実　績			小学校3.8% 中学校5.6%		

進捗状況説明：令和5年度は校務支援システムのカスタマイズ、データ移行、グループウェアクラウド構築及び運用環境設定作業、メーカー研修が完了し利用を開始した。
適応指導教室及び校内自立支援教室を設置し、児童生徒の受け入れを開始することができた。また、不登校支援員を配置することができ、学校と連携した不登校児童生徒の支援を開始することができた。

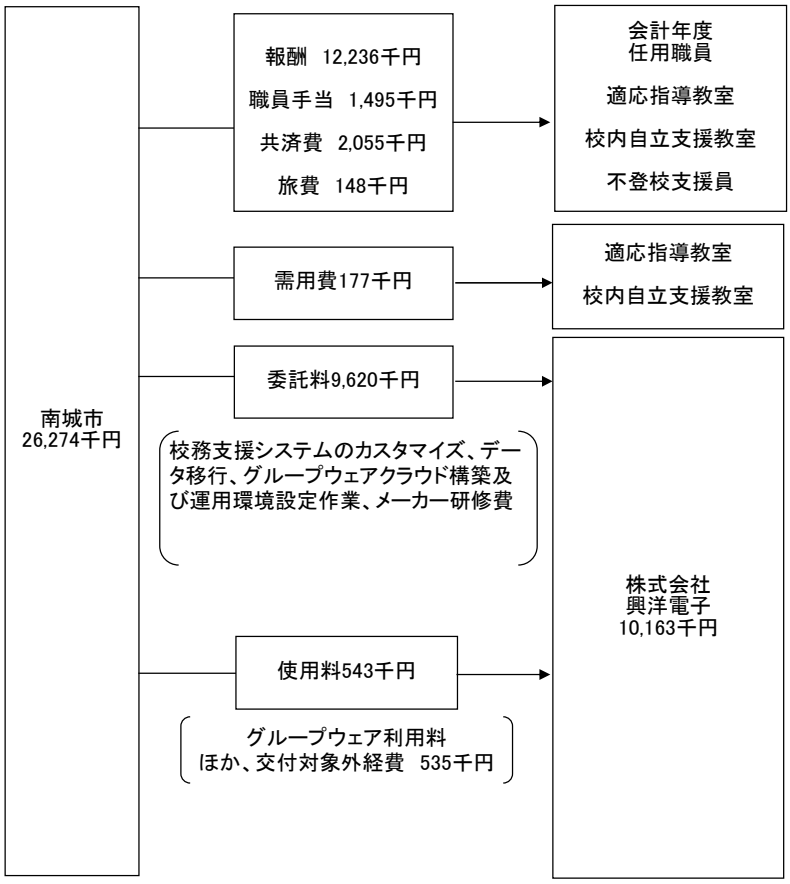
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	R5年度9月より校務支援システムの運用が開始されたものの、効果的な利用については、教職員の習熟が必要となる。	R6年度は校務支援システムの運用サポートを事業者へ委託すると共に不登校支援員との連携を図り、校務支援システムの効果的な利用に繋げていく。

今後の取り組み方針

令和5年度より本格的な運用が開始しているものの、校務支援システムの効果的な利活用のため、校務支援システムの運用サポートを委託する事業者と不登校支援員との連携により不登校の未然防止と学級復帰、学校復帰の取り組み強化を図っていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
26,809	26,274	21,019	5,255	535



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○執行率は適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	11南城市

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-①	優良繁殖牛導入支援事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第４章－３－（７）－ア おきなわブランドの確立と生産供給体制の強化
担当部課名	農林水産部　産業振興課	事業実施（予定）年度	平成26年度～令和8年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１－（６）

事業内容	和牛繁殖農家の経営の安定化に向け、畜産農家が生産する子牛の品質及び価格の向上を図るため、畜産農家に対して優良繁殖雌牛を貸し付けるものに対して支援を行う。
効果発現年度	■当年度　　□後年度（　　年度）
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
予算の状況	(a) 当初予算額	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000
	(b) 予算現額	25,000	21,276	20,923	30,000	21,561
	(c) 増減額 (b-a)	0	−3,724	−4,077	5,000	−3,439
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	25,000	21,276	20,923	30,000	21,561
	B. 執行済額	22,074	20,566	20,977	23,440	19,317
	うち交付金充当額	17,659	16,452	16,781	18,751	15,453
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		88.3%	96.7%	100.3%	78.1%	89.6%

予算の状況の説明：ロシアのウクライナ侵攻による飼料価格の高騰があり、繁殖牛の買付費用が当初の想定よりも低く抑えられたため、不用額が発生した。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
優良母牛導入支援	目　標	（50頭）	（50頭）	（60頭）	（50頭）
	実　績	50頭	50頭	60頭	52頭
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：導入頭数目標の50頭導入を達成した。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（H28年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（　年度）
導入した優良母牛から産まれる子牛とそうでない子牛との価格差の割合：117.1%以上	目　標	（104%）	（117.10%）	（117.10%）	（117.10%）	（　）
	実　績		109.75%	118.70%	113.28%	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：導入した優良母牛から産まれる子牛とそうでない子牛との価格差の割合は113.28%となり、目標を達成することができなかった。
セリ平均価格　導入牛から産まれた子牛　(A) 500,541円（実績：216頭）
導入牛以外から産まれた子牛　(B) 441,832円（実績：520頭）
(A)／(B)＝118.7%
※当年度に導入した優良母牛から産まれた子牛は販売までに時間を要するため、これまでに導入した優良母牛から産まれた子牛の令和5年度のセリ価格で実績を算出。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・コロナウイルスの感染拡大が落ち着き、肉用牛の需要が戻っている。 ・ロシアのウクライナ侵攻により、飼料価格が高騰しており、農家の経営を圧迫している。	・引き続き、価格差の割合を上げるために質の良い仔牛を提供する必要がある。また、繁殖牛農家の経営安定のために保留牛の出荷のサイクルを早める必要があり、さらに自家保留に努める必要がある。 ・また、畜産農家の経営が継続できるように、肉用牛の導入支援だけでなく、その他の補助も活用しながら重層的に支援する必要がある。

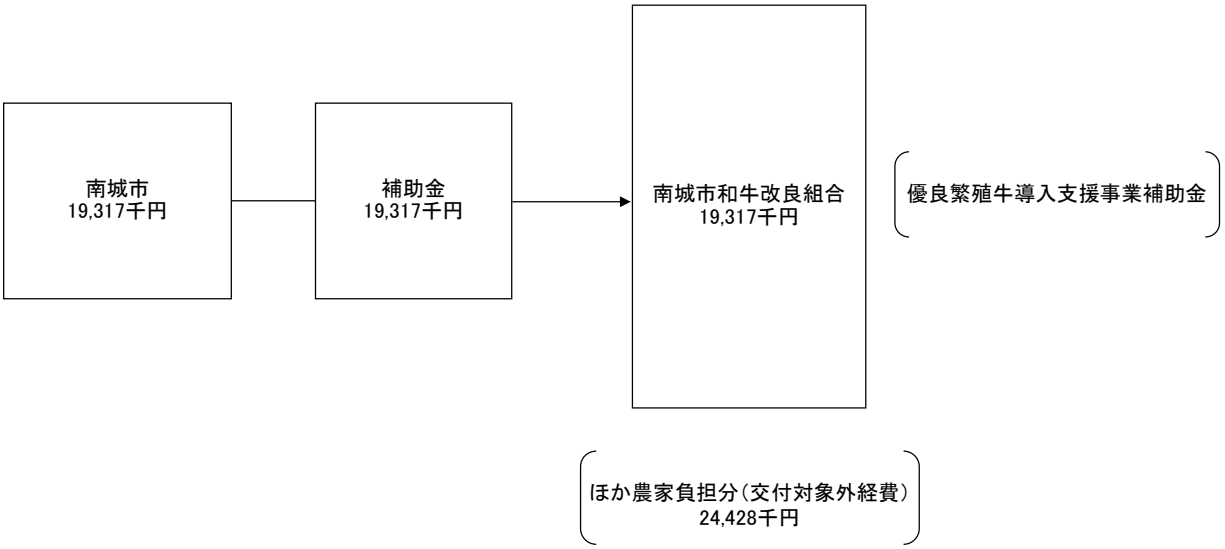
今後の取り組み方針

・関係機関と連携して、講習会等を開き飼養管理等の指導を行い、仔牛の質の向上によるセリ価格の向上と、繁殖牛の分娩間隔の短縮による出荷頭数を増やし、農家の経営安定に繋げる。

・国、県が実施する飼料補助も活用し、畜産農家の経営が継続出来るように支援していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
43,745	19,317	15,453	3,864	24,428



資金の流れ、費目・使途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○選定方法については補助金交付要綱に基づき決定しており、妥当である。 ○社会情勢を受けて牛の買付価格が低く抑えられたことにより不用額が生じたが、予算規模としては適正であったと考える。 ○受益者である農家は総事業費の5割以上を負担しており、事業内容から判断して妥当であると考える。 ○事業費の確定時において検査、確認をしており、使途は目的に則し、必要な物に限定されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	11南城市

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-②	優良乳用牛リース支援事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第４章－３－（７）－ア おきなわブランドの確立と生産供給体制の強化
担当部課名	農林水産部　産業振興課	事業実施（予定）年度	平成27年度～令和8年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１－（６）
事業内容	酪農家経営安定化に向け、乳用牛の生産乳量の増加と乳質の向上を図るため、酪農家に対して優良乳用牛を貸し付ける。				
効果発現年度	■当年度　　□後年度（　　年度）				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
予算の状況	(a) 当初予算額	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000
	(b) 予算現額	25,000	22,500	21,415	17,860	25,000
	(c) 増減額 (b-a)	0	−2,500	−3,585	−7,140	0
	(d) 繰越額	0	0	0	0	
	A. 計 (b+d)	25,000	22,500	21,415	17,860	25,000
	B. 執行済額	20,887	21,415	19,040	15,713	21,429
	うち交付金充当額	16,709	17,132	15,232	12,570	17,142
次年度繰越額		0	0	0	0	
執行率（%）(B/A)		83.5%	95.2%	88.9%	88.0%	85.7%

予算の状況の説明：ロシアのウクライナ侵攻による飼料価格の高騰があり、乳用牛の買付費用が当初の想定よりも低く抑えられたため、不用額が発生した。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
優良乳用牛導入支援	目　標	（50頭）	（50頭）	（60頭）	（50頭）
	実　績	50頭	50頭	60頭	77頭
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：導入頭数目標の50頭導入を達成した。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（H28年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（　年度）
生産乳量(1頭)：8,500kg以上/年	目　標	(7,824kg以上)	(7,988kg以上)	(7,988kg以上)	(8,500kg以上)	（　）
	実　績		8,917.9kg	8,807.2kg	8,603.2kg	
乳質(脂肪率)：3.87%以上	目　標	(3.89%以上)	(3.87%以上)	(3.87%以上)	(3.87%以上)	（　）
	実　績		3.98%	3.89%	3.95%	

進捗状況説明：
・生産乳量目標8,500kg以上に対して実績が8,603.2kgとなり、目標値を達成できた。
・乳質（脂肪率）の向上3.87%以上に対して実績が3.95%となり、目標値を達成できた。

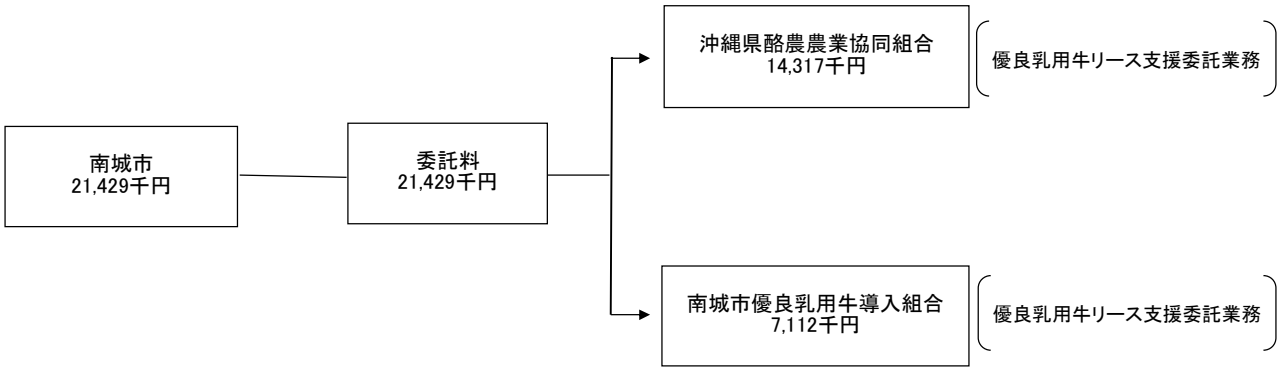
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	ロシアのウクライナ侵攻により、飼料の価格が高騰しており畜産農家の経営を大きく圧迫している。	畜産農家の経営が継続できるように、乳用牛の導入支援だけでなく、その他の補助も活用しながら重層的に支援する必要がある。

今後の取り組み方針

国、県が実施する飼料補助も活用し、畜産農家の経営が継続出来るように支援していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
21,429	21,429	17,142	4,287	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先の選定については、地方自治法及び本市の財務規則に基づき随意契約しており妥当である。 ○不用額が生じたが、社会情勢を受けてのセリ価格下落によるものであり、予算規模は適正であったと考える。 ○事業費の確定時において検査、確認をしており、使途は目的に即し、必要なものに限定されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	11南城市

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-③	南城市耐候性野菜栽培施設整備事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(7)-ア おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備
担当部課名	農林水産部　産業振興課	事業実施（予定）年度	平成27～令和6年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(6)

事業内容	本市の基盤産業である1次産業の更なる推進を図るため、気象条件に左右されにくい耐候性ハウスを整備し、農産物の安定生産及び安定供給による農家の経営安定並びに南城市産野菜の産地形成を図る。
効果発現年度	■当年度　　■後年度（令和12年度）
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R2年度（未実施）	R3年度（未実施）	R4年度	R4年度（繰越）	R5年度
予算の状況	(a) 当初予算額			43,252		82,909
	(b) 予算現額			43,252		33,440
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	-49,469
	(d) 繰越額			0	43,252	0
	A. 計 (b+d)	0	0	43,252	43,252	33,440
	B. 執行済額			0	40,920	33,320
	うち交付金充当額			0	29,760	26,656
次年度繰越額				43,252	0	0
執行率（%）(B/A)		#DIV/0!	#DIV/0!	0.0%	94.6%	99.6%

予算の状況の説明：予算額の大幅な減額は、審査委員会において、選定に至らなかった農家がいたことが要因である。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
①耐候性ハウスの整備（㎡）	目標	（3,000 ㎡）	（3,200 ㎡）	（　㎡）	（　㎡）
	実績	2,808 ㎡	3,193 ㎡	㎡	㎡
②耐候性ハウスの整備（棟）	目標	（10 棟）	（6 棟）	（　棟）	（　棟）
	実績	7 棟	6 棟	棟	棟

達成状況説明：計画時に測量のうえ施設の配置をしていたが、施工時の再測量により、原設計の配置ではスペースの確保ができないことが判明した。当初予定していた設置面積を変更し、概ね目標を達成した。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（R12年度）
【R12成果目標（R5事業）】 施設総面積32a（3戸分） 沖縄県なす指標10aあたり8t（1戸） 32aあたり26t（3戸あたり8年間（R12）目標値）	目標	（　）	（　）	（0 t）	（　t）	（26 t）
	実績			0 t	t	
耐候性ハウスの整備完了	目標	（　）	（　）	（完了）	（　）	（　）
	実績			完了		

進捗状況説明：予定していた棟数の耐候性ハウス整備が完了した。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・ハウス整備工事を進めるにあたり、不安定な気候変動が懸念されるため、雨天時も考慮した対策が必要となる。	・雨量が例年に比べ少量となっていたこともあり、工程通り工事を行うことができたが、今後は気候環境も考慮し、工事着工時期を早めに組む必要がある。

今後の取り組み方針

・募集期間の早期設定やハウス整備までの年間スケジュールの見直し等により、整備完了後における迅速な生産開始を図る。

資金の流れ

（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
45,815	33,320	26,656	6,664	12,495

南城市（33,320千円） → 補助金（33,320千円） → 沖縄県農業協同組合（33,320千円）

（施設設置に係る経費 3農家）

（ほか、交付対象外経費 12,495千円）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○外部団体参加の検討会を設け、公平公正な方法で選定を行っていた。 ○不用額は事業費の1％以内であり、適正な規模であった。 ○受益者である農家は総事業費の2割を負担しており、事業内容から判断しても妥当であった。 ○費目・使途については、工事完了段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	11南城市

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-①	低炭素なまちづくり推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第４章－１－（１）－ア 脱炭素島しょ社会の実現に向けたエネルギー施策の推進
担当部課名	企画部まちづくり推進課 教育部生涯学習課、教育施設課	事業実施（予定）年度	平成28～令和６年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１０－（２）
事業内容	公共施設の照明機器や空調機器を省エネ機器に改修し、温室効果ガスの排出削減を図る。				
効果発現年度	■当年度　　■後年度（令和6～7年度）				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

※

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
予算の状況	(a) 当初予算額	18, 900	51, 570	32, 778	33, 836	119, 189
	(b) 予算現額	18, 900	51, 570	158, 537	30, 602	67, 408
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	125,759	-3,234	-51,781
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	18,900	51,570	158,537	30,602	67,408
	B. 執行済額	18, 884	51, 533	158, 537	30,602	67,408
	うち交付金充当額	15, 107	41, 226	126, 829	24,481	53,926
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		99.9%	99.9%	100.0%	100.0%	100.0%

予算の状況の説明：交付金申請段階では業者見積額を参考に予算計上していたが、設計価格が大幅に下がった為、補正することとなった。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
（文化センター） 照明機器取替工事の実施	目　標	（　）	（　）	（　）	（1式）
	実　績				1式
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：（文化センター）
街灯の台座が腐食していた為、作成する必要が生じたことで変更契約を行ったが、それ以外は概ね順調に施工することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（　年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（R6年度）
（文化センター） 照明機器取替工事の工事完了	目　標	（　）	（　）	（　）	（完了）	（49.7t）
	実　績				完了	
（大里中学校グラウンド） 屋外照明LED化によるCO2削減量	目　標	（　）	（　）	（　）	（13.2t）	（　）
	実　績				13.3t	

進捗状況説明：（文化センター）
計画通りの取替となったことから順調に目標を達成することができた。

（大里中学校グラウンド）
CO2削減実績については13.3tとなり目標を達成出来た。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	（文化センター） 施設の照明は概ね順調に取替えることができたが、ホールの客席照明は予約が無い状況でしか行えないことから2月に休館して施工した。文化センター指定管理者の了承は得ていたもののできるだけ負担の無い形で施工する必要がある。 （大里中学校グラウンド） 大里中学校整備事業の為、約4年間グラウンド使用を停止した事から以前よりも貸出頻度が下がる可能性もあったが、グラウンド及び照明設備が整備工事により充実した。それによりグラウンドの利用実績がこれまで同様であった事が目標達成の要因と考えられる。	（文化センター） 次年度の空調機器改修工事は文化センター指定管理者と協議を行い、最適な工期を設定する必要がある。 （大里中学校グラウンド） 今年度のグラウンド貸出についてはグラウンド整備工事完了後の5月中旬から開始されたが、目標値を達成出来た事から今後は更なる効果が期待される。

今後の取り組み方針

（文化センター）
空調機器の改修を実施し、より低炭素な施設運営を目指す。

（大里中学校グラウンド）
引き続きグラウンドの貸出を行ないながら、機器の点検業務を行ない不具合が出た場合には早急に対処出来るよう務める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
67,408	67,408	53,926	13,482	0

南城市
67,408千円
→
（文化センター）
工事請負費
67,408千円
→
（文化センター）
（株）石川電設・（株）輝水
JV67,408千円
（南城市文化センター照明機器取替工事）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○受益者である観光協会は総事業費の2割を負担しており、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南城市

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-②	南城市エコリサイクル推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-（1）-イ 社会生活における資源循環の推進
担当部課名	企画部　観光商工課	事業実施（予定）年度	令和5年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-10-（1）

事業内容	刈草や伐採樹木等の資源化（チップ化）に係る資機材を整備し、ゴミの減量化や3R（リユース・リデュース・リサイクル）を推進することで、持続可能な循環型社会を目指す。
効果発現年度	■当年度　　■後年度（令和6年度）
実施方法	■直接実施　　□委託　　□補助　　□負担　　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
予算の状況	(a) 当初予算額	21,837				
	(b) 予算現額	18,650				
	(c) 増減額 (b-a)	-3,187	0	0	0	0
	(d) 繰越額	0				0
	A. 計 (b+d)	18,650	0	0	0	0
	B. 執行済額	18,198				
	うち交付金充当額	14,558				
次年度繰越額		0				0
執行率（%）(B/A)		97.6%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

予算の状況の説明：不用額については入札残によるものである。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
資機材購入実施	目　標	（　実施　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	完了			

達成状況説明：資機材購入完了。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（　年度）	R5年度	R6年度	R7年度	目標値（R6年度）
資機材購入完了	目　標	（　　）	（　完了　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		完了			
【R6成果目標】草木の処分量	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（ 2,990t以上 ）
	実　績					
【R6成果目標】堆肥生産量	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（ 10,152袋 ）
	実　績					

進捗状況説明：R6目標値については、過去3年間（R1～3）の平均を10%上回る量を設定した。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	搬入される刈草や伐採樹木等の量で成果目標（指標）の実績に影響が出てくる。	市内で発生した刈草や伐採樹木の受け入れ周知を図り、処理量の増加を図る。

今後の取り組み方針

市内各団体や自治会等へ刈草や伐採樹木の受け入れ周知を通じた資源リサイクルの周知を図り、受け入れた資源をたい肥化することで受入れた刈草や伐採樹木の再資源化を推進する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
18,199	18,199	14,558	3,641	0

南城市 18,199千円 → 備品購入費 18,199千円 → ヤンマー沖縄（株） 18,199千円 〔 資機材購 〕

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額（入札執行残）は事業費の5％以内であり適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	11南城市

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5-①	なんじょう歴史文化保存継承事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－1－（4）－ア 沖縄文化の継承・発展・普及
担当部課名	教育部　文化課	事業実施（予定）年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－（3）
事業内容	南城市の歴史・文化について継承するため調査研究を行い、その成果を刊行物や学習会、ウェブ発信等により普及する。				
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
予算の状況	(a) 当初予算額	25,315	17,679	21,093		14,598
	(b) 予算現額	25,315	17,679	18,582		14,140
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	▲ 2,511		▲ 458
	(d) 繰越額	0	0	0		0
	A. 計 (b+d)	25,315	17,679	18,582		14,140
	B. 執行済額	21,860	17,110	18,259		13,980
	うち交付金充当額	17,488	13,688	14,606		11,184
次年度繰越額		0	0	0		0
執行率（%）(B/A)		86.4%	96.8%	98.3%		98.9%

予算の状況の説明：概ね事業計画どおりに執行できた。不用額160千円は、会計年度任用職員報酬、手当等の残によるものである。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
『年報』刊行	目　標	（　）	（　）	（　）	（『年報』刊行）
	実　績				刊行
学習会等の開催(2回)	目　標	（学習会(2回)）	（学習会(2回)）	（　）	（学習会(2回)）
	実　績	中止	学習会(1回)		学習会(3回)

達成状況説明：
・令和5年度の事業実施成果や活動報告をまとめた『年報』を刊行した。
・学習会は、市内の民話をもとに民話劇を制作し、市内2小学校で上演するとともに、民話の解説を行った。また、久高島の歴史と民俗について、一般向けの講演会を実施した。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（年度）
学習会等への参加延人数　60人以上	目　標	（　）	（30人以上/2回）	（　）	（参加延人数 60人以上）	（　）
	実　績		79人/1回		参加延人数 209人	

進捗状況説明：
・学習会は市内小学校の高学年向けのもの及び、一般の方を対象に実施したところ、成果目標を上回る実績となった。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・新型コロナウイルスの感染拡大が収束したことにより、対面での学習会について人数の制限をせずに実施することが可能となった。	・調査成果を普及するための学習会等については、引き続き児童生徒や一般の方を対象として対面により実施するほか、ウェブ上でも発信を行うことで、より多くの方への普及を図る。

今後の取り組み方針

・本事業での調査成果をより効果的に普及するため、対面の学習会等で児童生徒や市民へ普及する機会を設けるほか、「なんじょうデジタルアーカイブ」を活用して発信することで、普及の裾野を拡げていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
13,980	13,980	11,184	2,796	0

南城市 13,980千円

- 報酬 7,028千円 → 会計年度任用職員(3名) 7,028千円 ： 調査研究・編集・普及の専門員として任用
- 職員手当等 1,236千円 → 会計年度任用職員（3名） 1,236千円 ： 会計年度任用職員に対する期末手当（6月、12月分）
- 共済費 1,218千円 → 会計年度任用職員（3名） 1,218千円 ： 会計年度任用職員の共済費
- 委託料 3,094千円 → 丸正印刷(株) 3,094千円 ： 令和5年度『年報』に係る印刷製本費
- 備品購入費 53千円 → （株）沖縄科学AVセンター 53千円 ： ボイスレコーダー購入
- 事務費 1,351千円 ： 報償費、旅費、需用費

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業者は一般競争入札及び公募型プロポーザルで選定しており、妥当であったと考える。 ○執行残は1.1%であり適正な予算規模であった。 ○費目、使途は精算段階で検査を実施しており、目的に即し必要であったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	